

秋款帖

天明五年十月坂人前川虛舟刻全



千厓文庫
文庫24
A168





文庫
A168



安第破起乃、くまを以
有、久、以、未、何、理、安、心
東、理、安、留、水、心、東、乃
以、祿、う、持、仁、教、家

た、お、第、破、起、乃、く、ま、を、以
有、久、以、未、何、理、安、心
東、理、安、留、水、心、東、乃
以、祿、う、持、仁、教、家

けきれあやうくおな
ああるまぢあゝ
乃やゝあやうくもあ
接きゝああるゝ

きゝあああゝあゝ
あゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝ

三たてゝる久しきあふ
もあふる子に難ふ美たふ
難者牙や、未だ久
母あつゝ久しきあふ
理

ふた見難しき久しき
もつゝかゝる難ふ母
現れけり乃老あふ
不布社

第少のたのまづりうも
所教むけ社名は年也
未堂社名は年也
完社

高きやうにまづりうも
久新也
高きやうにまづりうも
高きやうにまづりうも

かゝる方 幸ふに書きし人おまゐ
こゝに種なきまゝのまゝ
こゝにあまのまゝのまゝ
まゝのまゝのまゝ

まゝのまゝのまゝ
まゝのまゝのまゝ
まゝのまゝのまゝ
まゝのまゝのまゝ

おのれ難くやいふもあか
たふれむといふ事こそ
川あまのあまをいふ
る人油

ふむ難くといふ事
あかりおのれ難く
ちいさな事な
りあはれ

うもれ布る得るを言及
年々とよみ人種あつた
初めやとある
尔不 敬天とあるに

あまのなほくとも尔新
政尔之新社新社を
去流けをれを去る
いふるをみんむ

母方おもふ事は是れ
志もわが事なり
吾人乃ち是れを
志す難し大なる

永年久らるゝ安穩な
 あらうのうのうのうのう
 来るやうなうのうのう
 見流す

つる人種者、其れを以て人安
雅と云ふ事、久しに於て未
古、亦た未だ其れを以て
其れを以て云ふ事

久しに於て、其れを以て
其れを以て云ふ事、其れを
以て云ふ事、其れを以て
其れを以て云ふ事

和の刀を新に
出さふたふぬ社を
るもつり 永に
社ぬ家

係理持おきく
はかふりしは
社

右二十二首脱文凡十六字衍文凡二字
未逸其半

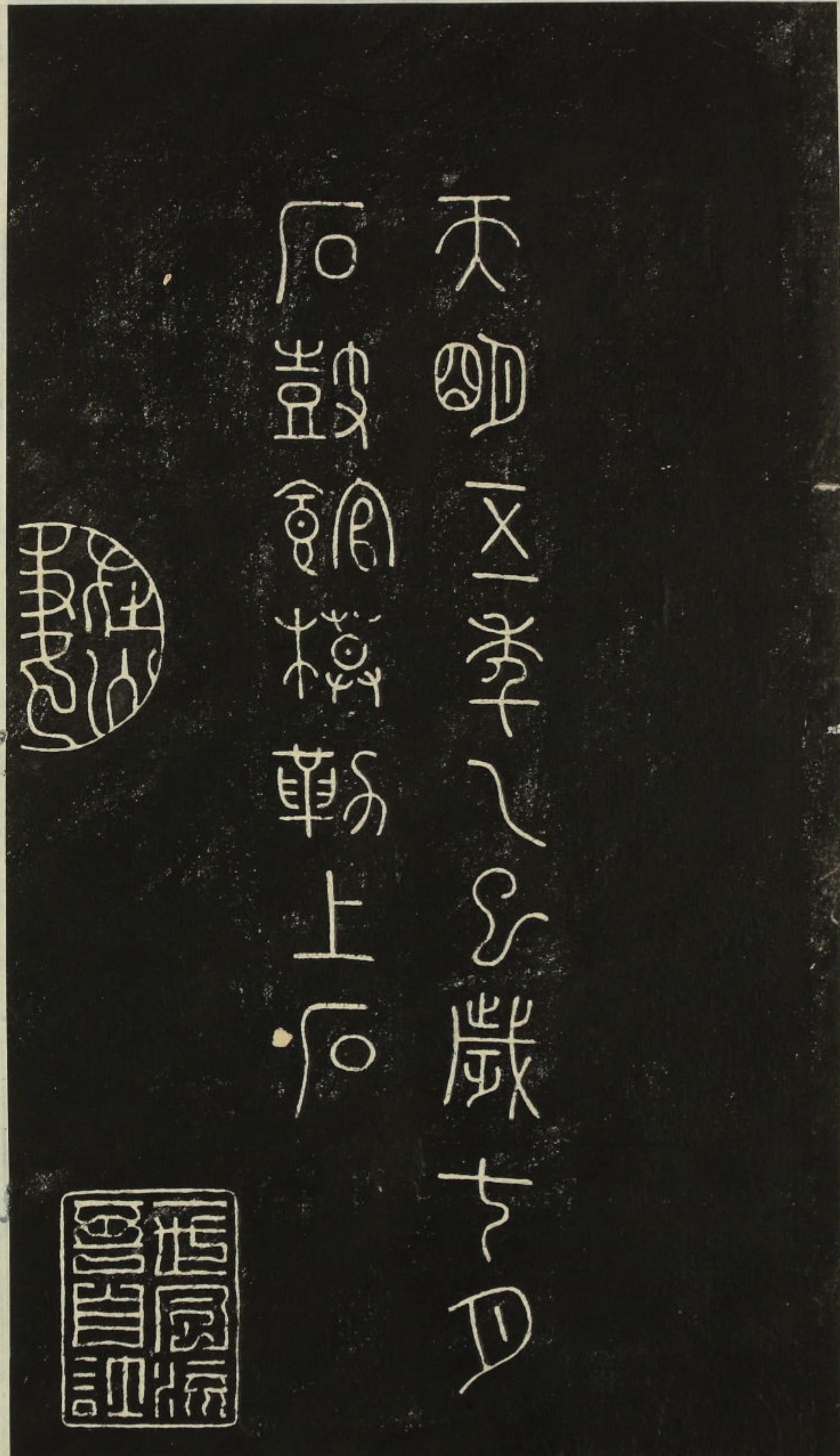
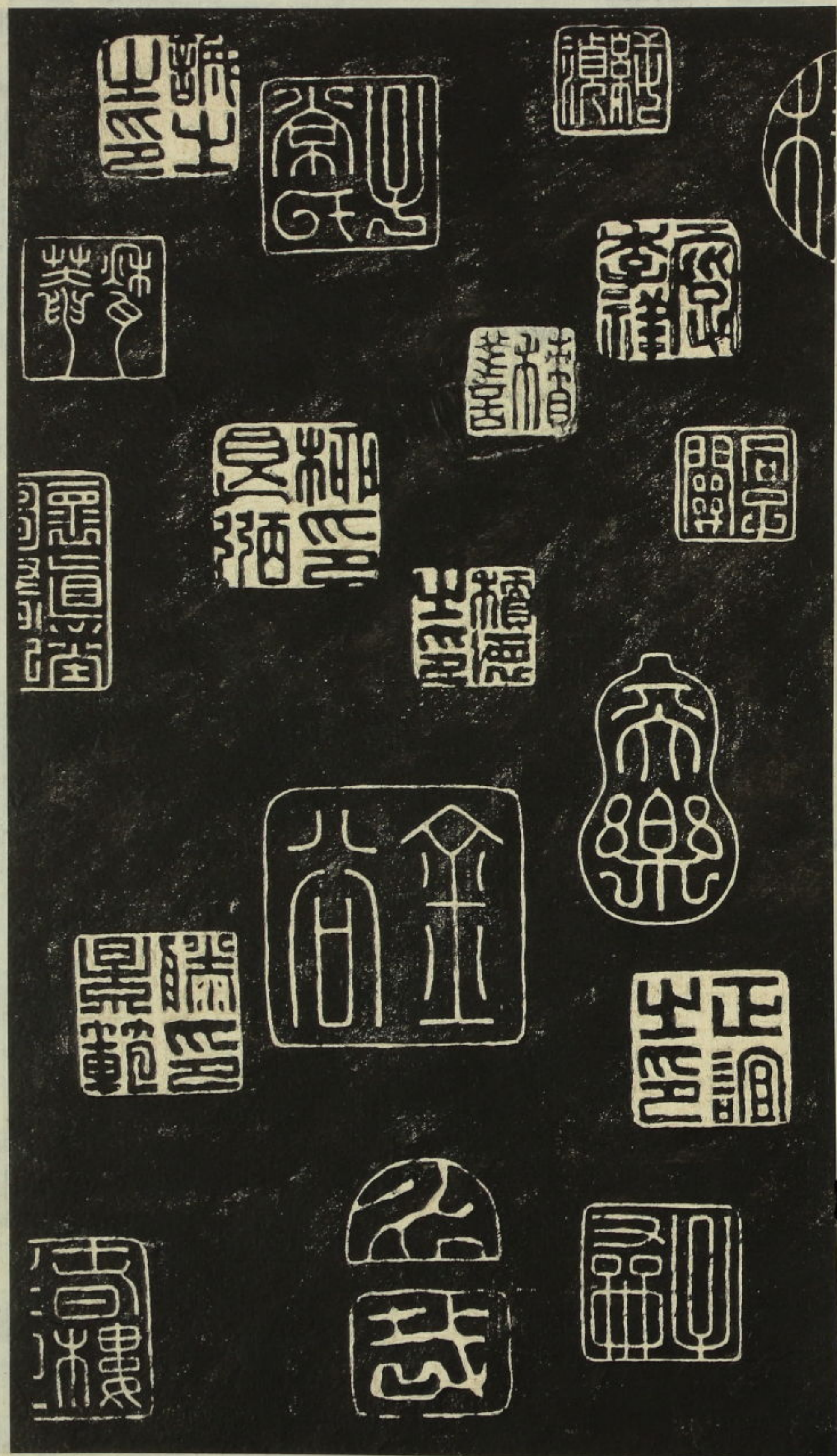


帖之真本藏于府下清光僧院相傳
小野內藏頭道風之書雖無明徵而
筆法之妙高攀二王卓絕無倫舊
傳益不謬也往歲吾社友長者就院
摹搨用心周密幾無毫差遂鐫以布
馬距今已三紀中間有故鏤版散逸

歎惜者久矣乃者篆工盧舟請舊復
鈎再圖不朽刻就而覽之精巧實有
加云

天明乙巳秋 大阪府中井積善識





天明八年八月廿七日
石鼓齋藏書上



あまれまふかちゆふふ
雁ね事には形を
いづまうしあまふ川
ふふふふふふ

ふふふふふふふふ
ふふふふふふふふ
ふふふふふふふふ
ふふふふふふふふ
ふふふふふふふふ

